

# 科学的学習意欲の フォーラム2017

夏季休業中に行われた「学習意欲の科学的研究フォーラム2017」に、多くの保護者、子供たち、小中学校の先生が参加し、学力と生活・学習習慣について考えました。その概要をお知らせいたします。

平成29年9月19日発行  
仙台市教育委員会  
学びの連携推進室  
☎022-214-8438

仙台 学習意欲 検索

学習意欲の科学的研究フォーラム2017  
期日：平成29年8月9日（水）14:00～  
場所：太白区文化センター（楽楽楽ホール）

主催：仙台市教育委員会  
共催：東北大学加齢医学研究所  
仙台市PTA協議会

## ▶ オープニング

### 発表テーマ

「川島隆太先生！長い時間ゲームをしたり、TVを見たりすると、成績が下がるってほんとうですか？【寺岡小学校3年生 木村時穂さんによる研究発表】

平成28年度仙台市教育課題研究発表会で発表した（当時2年生）内容を、再度発表してもらいました。

研究内容は、**ユーチューブを見るのが大好きだけど、見過ぎると成績が下がるのか疑問**に思い、実際に確かめたというものです。研究結果は、ユーチューブやテレビを2時間以上見てから100マス計算をすると、計算を間違っただけでなく、字が汚くなったり集中できなくなったりしたそうです。

そこで、「**ユーチューブを1時間以上見ない**」「**勉強の前には、ユーチューブを見ない**」というマイルールを決めて、今も守っているそうです。



ユーチューブやテレビを  
2時間以上みてから解いた問題

はじめのほうで、  
まちがっている

字もみだれて 汚い

**実験からわかったこと**

テレビやユーチューブの音になれてしまい、問題を解こうとしたら、静かな音にぎやくに頭がおちつかなくなった

長い時間、テレビやユーチューブを見てから、勉強するのは、やるきがなくなる

脳は、わるいかんきょうに あっというまになれてしまう

## ▶ 基調講演

「学力が伸びる子、伸びない子の生活・学習習慣の違い」  
～仙台市の子供たち50万人のビッグデータと最新の脳科学研究から～  
【東北大学加齢医学研究所 教授 川島隆太 氏】

川島教授からは、市標準学力検査、生活・学習状況調査の結果から明らかになったことや、ご自身の脳科学の研究から関連することについてお話していただきました。



### <概要>

- ・スマホを使う時間が長くなれば長くなるほど、成績が低くなる。
- ・勉強時間、睡眠時間に関係なく、無料通信アプリを使うと成績が下がる。
- ・これらのデータは、**学校で勉強したものが、スマホを使ったことにより、勉強した中身が脳から消える**というデータにしか見えてこない。
- ・スマホを使っていたが使うのをやめると、成績が上がり始める。そして、使い続けている人は、低い成績がどんどん低くなっている。
- ・勉強中にスマホを使う子供たちがいるが、アプリを使用すると成績が低くなっており、「**ながら勉強**」は**一つもいいことがない**。
- ・「言葉調べ」のときにスマホなどを使うと、脳は全く働かない。**辞書を使うときは脳が働いている**。
- ・授乳時のスマホは危険。スマホを子供に預けた子育ては、他者の表情を読み取る能力が極めて低い。
- ・子供たちの**脳の発達にいい刺激は「読書**」。読書をする時間が長い子供たちは左の脳を中心に、脳の情報伝達がしやすい脳になっている。

# ▶ パネルディスカッションⅠ 対決!?

※「 」は川島教授



「スマホ・LINE世代が学力を伸ばすには」  
 【パネリスト：川島教授、市内中学生】



「スマホのメリットって何ですか」  
 ・多くのことを調べられる。満足感も得られる。  
 ・流行の情報に触れられる（歌や芸能人など）。  
 ・友達がLINEネタで盛り上がっているのを見ると、いいなあと思う。  
 「そのメリットと、成績が下がるデメリットで、どっちが重たい？」  
 ・デメリットの方が重い（4人とも同意見）。

パネルディスカッション中、川島教授からは、インターネット上の情報の怪しさや秘密保持の難しさ、**何事もよい面と悪い面があり、バランスをとりながら自分で考えて決めることが大切**などのお話がありました。

「中学生の現状をインタビューします」  
 ・就寝時間23時～1時の間。4人中2人はスマホを2～3時間使う。2人は持っていない

「感想は？」  
 ・周りが使っているからスマホを持つ感じだったけど、デメリットが多くあり、よく考えて使わないといけなかった。  
 ・**スマホに操られないで、自分でしっかり操縦して使いたい。マイルールをつくり、守っていきたい。**

「長時間スマホを使うとどうして成績が下がると思う？」  
 ・勉強よりもスマホの内容の方が思い出しやすく、その印象の差が、頭の中で勉強の内容を薄れさせていくと思う。

# ▶ パネルディスカッションⅡ 悩み解決!?

※「 」は川島教授



「学力を伸ばすために、スマホ・LINE世代の子供をもつ親が家庭でできること」  
 【パネリスト：川島教授、中学生の子供をもつ保護者】



「スマホを持つメリットは？」  
 ・事務連絡など、使い方によって有効な手段。  
 ・社会に出たときに、使いこなせる人間が求められる。慣れ親しむという意味でも良い。



「子供たちにスマホとの付き合い方について、何て伝えますか。」  
 ・ルールづくりはしたのですが、初めの段階で終わってしまった。  
 ・親の管理ができるのは中学生までだと思う。  
 ・自分でルールを決めて、それを支援してあげる状況がいいと思う。  
 「**自分のルールをつくらせる、ではなくて、自分でルールをつくる**ことが大事。」

「スマホ使用を1時間未満で抑えている子供たちの割合は少ない。現実にはだらだら使っている子の方が多い。**成長期の子供たちに、楽で便利なものを簡単に与えることは正しいことでしょうか。**」

・**学習アプリ**というのがあって、子供がそれを使って学習しているということもメリットがある。

パネルディスカッション中、川島教授からは、「スマホを使うことで、自分たちに何が起るかということに気が付かせ、自分でルールをつくるということを学校教育の中でやってもらいたい」「**成長期の子供たちは心身を使ってこそ成長する**」「子供たちに楽で便利なことをさせるというのは、社会として正しいのか、ということをよく考えてほしい」などのお話がありました。

「他国で特区を作ってもものすごくIT化したところがあるが、子供は興味・関心は示すが、子供の中に残っていないということで失敗に終わっている。」